

朝鮮における社会主義経済強国建設

朝鮮社会科学院経済研究所研究員 尹載昌

経済強国の建設は、現時期の朝鮮における革命と社会発展において切実に必要とされており、強盛大国¹の面貌を全面的に備えるための、やりがいのある歴史的偉業である。朝鮮革命と朝鮮における社会の発展は、祖国繁栄の全面的開化期を切り開いていく新しい歴史的段階に入っている。

朝鮮では、すでに敵のどんな侵略策動も容赦なくたたきつぶすことのできる強力な核抑止力、自衛的国防力がしっかりとかためられて、社会主義軍事強国の大黒柱である人民軍将兵が、国の繁栄と人民の幸福のための闘争において先軍革命の主力軍として、栄誉を高くとどろかせている。

今日、朝鮮社会において、革命隊伍の一心団結はどのときよりも強化されている。朝鮮人民は、強盛大国を建設する時代に暮らす人民らしく、皆が必勝の信念と革命的楽観主義を深く胸に刻み、革命と建設のすべての分野で革命的原則、階級的原則を徹底的に固守しながら政治思想強国の威力を高くとどろかせている。

社会主義経済建設分野においても、新しい飛躍の足場が準備されようとしている。農業生産をさらに伸ばすための確固とした展望が開かれ、経済建設と人民生活の向上において重要な意義を持つ多い対象が技術的に改造・現代化されている。基幹工業と重要工業部門の多数の工場、企業所で生産が向上しており、国の経済全般が確固な上昇の軌道に入っている。

新たな一大飛躍をもたらすことができる偉大な指導思想、不敗の一心団結、しっかりとした経済土台があり、強力な戦争抑止力を保有している条件のもとで、国力が強く、すべてが豊富で人民が世の中に羨むものなく暮らす、社会主義強盛大国を建設するための闘争を、さらに力強く展開して行くことを要求している。

強盛大国建設において、転換的局面が開かれ、社会主義強盛大国の黎明が訪れた現実、朝鮮人民に、近い年間のうちに強盛大国のより高い目標を必ず実現することができるという信心と楽観を抱かせてくれる。

われわれは、すでに軍事強国と政治思想強国の威力を高くとどろかせており、今日われわれに提起されている当面の主たる課題は、経済強国のより高い目標を実現するための攻撃戦を敢然と繰り広げることである。

社会主義経済強国は、すでに築かれた自立的民族経済の土台をふまえ、建設される自立的な社会主義経済強国である。経済強国は、自立的民族経済をより高い発展水準に上げ、強盛大国の面貌に適った強力な社会主義物質技術的土台が築かれ、人民に豊かな物質文化生活を保障する経済的に高い発展水準にある国である。

社会主義経済強国の主な特徴の一つは、国の経済が主体化され、高度に現代化、科学化されていることである。主体化された経済は、他人に隷属せず、自分の足で歩いていく経済、自国の資源と自らの技術に依拠して自国の実状にあわせて発展する経済である。すなわち、主体化された経済は自主的な経済である。

多面的で総合的な経済構造を備えた主体化された経済は、国と人民の需要を基本的に自国で保障することができる国防工業、重工業と軽工業、農業等の生産部門をすべて築くこと要求する。多面的で総合的な経済構造を確立することは、国の安定と国と人民のさまざまな物質的需要を自国で生産し、保障するための基本的な条件であり、人民経済における均衡を積極的に維持しながら、経済を速い速度で発展させるための保証となる。

自国の原料、燃料基地と動力基地がしっかりと備えられた主体化された経済は、必要な原料と燃料、動力を自国で生産し、保障する。原料と燃料、動力を他人に頼ることは、経済の命脈を他人に依存することと同じである。経済的に自立するためには、自分の国の資源に基づく原料、燃料、動力基地をしっかりと築き、それに対する需要を基本的に自国で充足しなければならない。

高度に現代化、科学化された経済は、自国の科学技術に依拠して科学技術を経済発展の力強い原動力にして、人民経済全ての部分が先端技術で更新され、装備された経済である。

高度に現代化、科学化された経済は、人民経済全ての部門が現代科学技術の先端に立つ最新設備と技術で装備され、生産と経営活動を最新の科学技術の土台の上に載せることを要求する。人民経済を最新の科学に依拠して、情報技術等の現代的技術で装備してはじめて、国の天然資源を効果的に開発・利用し、人民経済を多面的かつ総合的に

¹【記者注】強盛大国は、思想強国、軍事強国、経済強国の3つの構成要素からなっている。そのうち、思想強国と軍事強国は、すでに完成されているとされている。

発展させ、労働者を骨の折れる労働から解放することができる。

高度に現代化、科学化された経済は、自国の民族技術幹部に依拠して発展する経済である。国の経済が自国の民族技術幹部によって運営されてはじめて、自分たち人民の力に依拠して発展する経済となることができる。情報産業時代の要求に合わせて、自国の民族技術幹部隊列をしっかりと築き、それに依拠して経済を発展させることは、自分たち人民の利益と自国の実態に合わせて経済を自立的に発展させる確固たる保証となる。

社会主義経済強国のもう一つの主な特徴は、国の経済が人民に豊かな物質文化生活を円満に保障できる水準にあることである。人民に十分な物質文化生活を円満に充足させる水準というのは、勤労者が衣食住に対して心配することがなく、誰もが安定した職場を持ち、貧富の差がなく、皆が平等な暮らしを送り、皆が平等に労働生活をするような水準である。

人民に豊かな物質文化生活を円満に充足させることができる経済水準を維持し、保障するのは、国の経済の土台がどのように構築されるかによる。

国の経済土台を強化しながら、人民に豊かな物質文化生活を保障することは、社会主義経済発展と人民生活向上の合法的な要求である。生産は、消費に比べて優位に立ち、生産の目的は、消費にある。社会主義社会では、生産と消費間に矛盾がないため、経済土台を強化し、生産を増やせば、人民生活水準が直接的に向上する。国の経済土台を強化することは、人民生活を高める物質的手段と条件を作りあげることとなる。一方、人民の生活水準を高めることは、勤労者が朝鮮の社会主義経済制度の優越性を現実的に体得して、生産的な熱意を高く発揮するようにするだけでなく、労働力の再生産も円満に保障して、国の経済土台をより強化することができる。

われわれが建設している社会主義経済強国は、決して抽象的かつ一般的な概念ではない。社会主義経済強国の里程標の一つは、全ての工場、企業が生産を高い水準まで引き上げ、それに基づいて国の重要工業生産量を始めとする、主な技術経済的指標で先進国の水準に到達することである。

社会主義経済強国の里程標のもう一つは、人民の物質文化生活において、衣食住の問題が解決されることである。衣食住の需要が円満に充足されることは、人民の物質文化

生活における画期的な転換になる。人民の食べる問題の解決において、大きな進展を成し遂げて、人民消費品生産を決定的に引き上げれば、朝鮮労働党が経済強国建設において立てている重要な目標の一つが、近い将来実現されるであろう。

社会主義経済強国の建設の展望は明るく、経済強国への道は遠くない。我々が富強祖国の建設のしっかりとした跳躍台を備えた条件で、経済強国を建設することは、近い将来実現できる、現実的に可能なことである。

社会主義経済強国を建設しようとするれば、何よりも築かれた自立経済の土台をより強化し、その威力を高く発揚させなければならない。築かれた自立経済の土台をより強化して、その潜在力を最大限発揚させることは、経済強国の建設のための重要な要求である。しっかりと築かれた自立経済の土台の生産潜在力が全て発揮されるようにすれば、生産をさらに増やせるし、人民の生活をより高めることができる。現存の経済土台をより効果的に利用することによって、現時期における生産成長を実現することができる。

築かれた経済土台を効果的に利用すると同時に、これを絶え間なく更新しなければならない。科学技術と生産力が発展するのにあわせて、経済土台の部門構造と技術装備水準も絶え間なく更新されなければならない。最新科学技術に基づいた人民経済の技術改造、経済の現代化を行ってこそ経済強国建設は確固として保証される。科学技術が速い速度で発展し、それにあわせて情報産業を始めとする様々な産業部門が新たに出現している時代の要求に合わせて、自立経済の部門構造を新たな産業部門で補強し、更新して、古い技術を新しい技術に更新するための全面的な技術改造を力強く繰り広げていかなければならない。全ての工場、企業所では、現存する生産土台を改造・現代化するために闘争に注力しなければならない。

国の全般的な経済を活性化しようとするれば、経済強国建設の前哨戦を守っている電力、石炭、金属、鉄道運輸等の人民経済の4大先行部門を盛りたてて、連帯的な革新²を進めて行かなければならない。4大先行部門を盛りたてることに国家的な力を入れ、石炭生産を正常化し、電力生産をより増やし、鉄鋼生産において画期的な転換を成し遂げて、増加する輸送需要を円満に充足しなければならない。

国の経済を盛りたてるためには、採取、機械、化学、建材、林業をはじめとする人民経済の全部門において、生産

²【訳者注】部門間での生産連携を強化することを意味する。

を活性化するための事業を積極的に推進しなければならない。

経済強国建設において、新しい飛躍を成し遂げようとするれば、人民経済の様々な部門で築かれた経済土台とその潜在力を利用して、生産において一大昂揚を起こすことと同時に、経済管理を革命的に改善することにも大きな関心を傾けなければならない。発展する現実と朝鮮の実情に応じて、独創的な経済管理体系と方法を立てて、その生活力が高く発揮されるようにしなければならない。すべての経済幹部は、科学的な経営戦略、企業戦略に基づいて、経済管理を実利が出るようにしなければならない。経済事業において、社会主義原則を徹底的に固守して行かなければならない。

社会主義経済強国を建設しようとするれば、人民生活水準を高めることと直接関連のある部門を盛りたてることに大きな力を入れなければならない。

近い年間に、人民がわれわれの経済土台の恩恵を実質的に受けるようにするのが党の意図であり、われわれの闘争目標である。21世紀の経済強国を立ち上げるためには、人民生活水準を早く高めなければならない。

朝鮮では、すでにしっかりとした経済土台と生産潜在力がある条件で、これを人民生活水準を高めることに利用しつつ、当面の間、人民生活水準を高めることと直接関連する部門に国家的な力を入れなければならない。

人民の食べる問題を解決することに、まず関心を向けなければならない。現時期、人民生活において出るすべての問題を成果的に解いていくことができる基本となる鍵は、農業生産を決定的に増やすところにある。『農業は天下の大本』、『米は社会主義である』という言葉の中にある本当の意味をきちんと知り、人民の食糧問題、食べる問題を解決することから画期的な前進を成し遂げなければならない。そうするためには、種子革命方針、ジャガイモ農業革命方針、二毛作農業方針、大豆農業方針をはじめ、党の農

業革命方針を徹底的に貫徹し、農業において、一大転換を成し遂げなければならない。

同時に人民が必要とする質がよい消費品と住居が十分に配当されなければならない。軽工業革命の炎を勢いよく起こし、人民の消費品生産を決定的に盛りたてなければならない。軽工業工場を積極的に現代化し、質がよい人民消費品を多く生産できるようにしなければならない。都市と農村に現代的な住居を多く建設し、増える人民の住居の需要を円満に解決しなければならない。

経済建設において、自力更正の原則を堅持していくことは、この地の上に強力な経済強国を立ち上げるための原動力である。

社会主義経済強国を建設するための決定的な保障は、国の経済的土台を積み上げ、人民の物質文化生活水準を高めるうえで、常に自力更正の原則を貫くことである。社会主義経済強国の高い目標へと駆け上って行こうとする今こそ、自力更正のスローガンをさらに高く揚げなければならないときである。われわれは自国の力で経済強国を立ち上げる覚悟を決めて、われわれの力と技術、資源に基づき、経済建設を急がなければならない。自力更正をすとはいえ、劣っている技術に依拠したり、経済的実利を無視したりしてはならない。社会主義経済強国を成果的に建設するために経済的実利を打算しながら、現代的な科学技術に依拠して、自力更正という確固たる原則を堅持しなければならない。

人民が先軍の旗を高く揚げ、強力な自衛の国防力を固めて、軍事強国を建設して強盛大国建設で転換的局面を開いておいたように敬愛する將軍様の領導を戴き、軍民が一つになり、泰川の気概³で経済強国建設を推進するとすれば、経済強国建設において画期的な転換が成し遂げられ、朝鮮は近い将来、社会主義経済強国として注目を浴びるであろう。

³【訳者注】2007年1月21日、金正日総書記が平安北道の泰川4号青年発電所を現地指導した際、建設に従事している人々の精神を「泰川の気概」として評価した。